

2 牛の一生

乳牛は、子牛を出産（分娩）することで、泌乳（牛乳生産）を開始します。

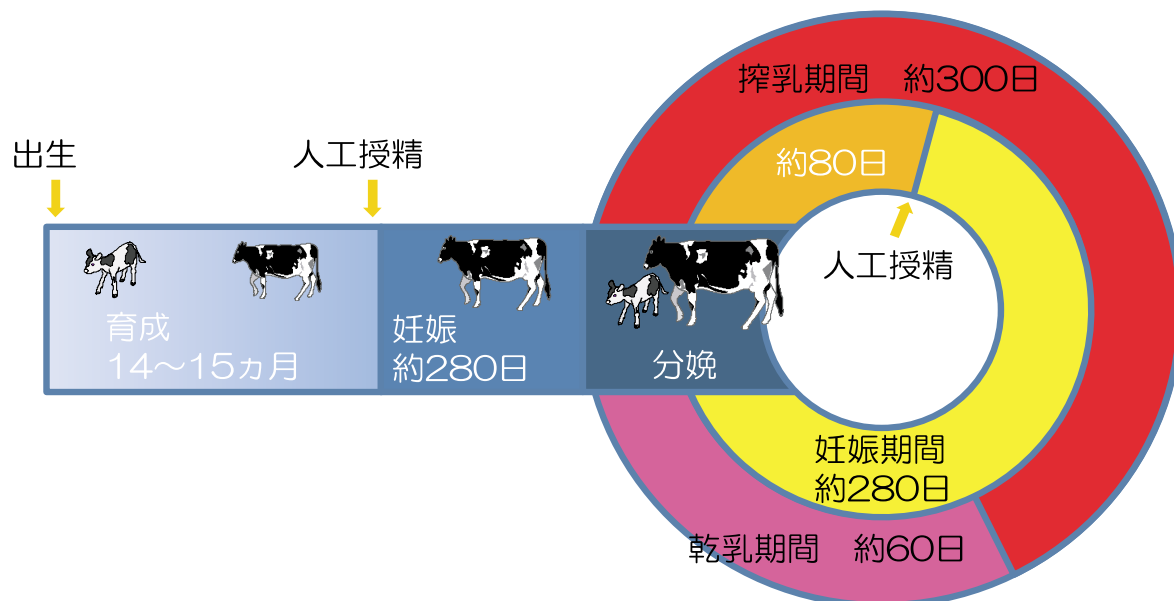


図4 牛のライフサイクル

(1) 出生から種付けまで

ホルスタイン種雌牛の出生時の体重は約40 kgです。その後、約9ヵ月齢以降になると、発情が始まり（春機発動）、それから3ヵ月ほどで卵巣・子宮ともに十分に妊娠可能（性成熟）となります。

種付け(人工授精)の開始は、月齢のみを目安とはせず、出産時に母牛の体格が小さくて難産を回避するために、体重350 kg、体高125 cmを目安とすることが推奨されています。

(2) 初産分娩月齢と体格

ホルスタイン種の妊娠期間はおおむね280日間とされ、初めて出産する月齢（初産分娩月齢）は23~25ヵ月齢となっています。

この頃の体格は標準的な発育で体重540 kg、体高137 cm前後となります。発育はその後も続き、60ヵ月齢で、体重680 kg、体高144 cmほどに発育します。

(3) 分娩・泌乳・授精・乾乳

分娩後、泌乳が開始され、徐々に乳量は増え、泌乳最盛期、授精、受胎を経て、乳量は次第に減少していきます。

授精の開始は、子宮の回復などを考慮し、分娩後50日前後から発情兆候を確認しながら行われます。

乾乳の開始は分娩予定日から60日前を一般的な目安にします。

このように乳牛は、分娩、泌乳、受胎を繰り返しながら、一生を送ることになります。

(4) 更新

乳牛の搾乳開始から淘汰までの期間は平均して3~5年前後となっています。これは、酪農家は乳牛の淘汰更新を行っているためです。淘汰の大部分は老齢と繁殖障害、乳房炎および代謝病などの疾病によるものです。